

オレリエン・ハンターの スイスへの誘い

バレンタインデー



2月14日、「バレンタイン・デー」です。

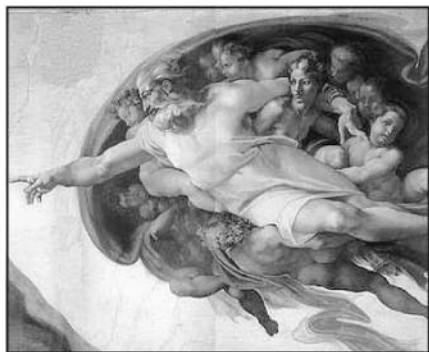
西洋では「恋人の祭り」として中世から祝っており、その日に、好きな人にカードやプレゼントを贈る習慣があります。片思いの人に告白する人もいますし、互いの愛を確かめ合うカップルもいます。そういえば、中学生の頃、片思いの人にバラを贈ったことがありましたなあ…



愛に満ち溢れているその日は、ときに、「独身であることを余計に意識させる日」という捉え方もあります…

本来、カトリック教会の暦で、2月14日は聖人となった殉教者バレンタインの日でしたが、庶民の間では恋人の味方だの、処刑される前に刑務所の番人の娘を熱愛した聖人だのの伝説が広まって、「恋人の聖人」として捉え、その日に交わされる恋文の習慣が定着しました。

日本では、皆さんがご存知のように、女性が男性にチョコレートを贈る日です。何でもないように聞こえますが、実は「バレンタイン大作戦」と言ってもいいほどです！！



ミケランジェロの神様

2月になると店頭には多種多様のチョコレートがズラッと並べられて、雑誌では「一番美味しい、一番お洒落、一番安い、一番高い」と言った内容のチョコレート特集を載せたり、本命の人に贈る手作りチョコレートに挑戦するためのレシピを載せたりします。会社では「義理チョコ」を配る女性がいます。「友チョコ」を交換する人もいます… そこでちょっと待った！

「恋人の祭り」だったはずのバレンタイン・デーは日本に定着したのにつれて、思わぬ方向に傾いた気がしませんか。

確かに、本命の人のためにチョコレートを作るまでして贈りたい女性の気持ちは西洋のバレンタイン・デーの精神に近いと言えます。プレゼントはチョコレートに限ってしまったことを除いて、好きだという気持ちをプレゼントに込めて伝えたいというのはやはりどこ行っても同じです。「友チョコ」もある程度で、友達だということを確かめ合える手段として捉えます。ですが、「義理チョコ」は摩訶不思議です。好きでもない相手に、「恋人の祭り」にプレゼントをするということは本当に不思議でたまりません。さらに、3月14日のホワイト・デーに、今度男性から女性へのプレゼントする日と言うのもあるではありませんか。謎が深まる一方でしたが、根本的な違いに感付きました。



東洋にみられる神々

私的な意見ですが、西洋のバレンタイン・デーにおいては、「贈る相手が第一」であって、日本では「贈る気持ちが第一」だという気がします。

要するに、個人個人に重心を置く西洋に対して、日本やアジアでは、個人の感情より礼儀や作法に重心を置くことから「義理チョコ」があるのではないかと思います。さらに考えると、そういった重心の違いが生じるのは、西洋文明を裏付ける一神教（キリスト教）と東洋文明を裏付ける多神教（日本は「八百万の神々の国」と言われていましたし、仏教にも「神」が大勢おりますし、中国の道においても同じようです…）の表れではないかと思います。私の考えすぎかもしれませんが、そんな気がします。